

普通科講演会を実施しました

第1学年

「文系、理系、そして、教養」

10月16日(金) 兵庫教育大学社会系教育講座 准教授 森秀樹先生にお越しいただき、上記「文系、理系、そして、教養」という演題で講演をしていただきました。

本来は科学総合コースのコースセミナーの一環として「文系・理系分野の大学教授・研究員による講義を聴き、専門的な内容をより深く考え、総合的な知識を得、新しい発想を導く力を身につけさせる」ことを目的に計画された講演ですが、2年生に向けての文理選択が目前に迫っている普通科の他の生徒も聴講させていただきました。



【講演の内容】より

- ・勉強には文脈が必要である。
- ・勉強すべき事柄は実は個々の事柄ではない。それは単なる点にすぎない。むしろ、重要なものは、文脈につなげていくことである。
- ・個々の勉強に意味があるというよりも、勉強することによって、自分を意味につなげていくことで重要である。それは生きることと同じである。
- ・文系、理系ではなく、総合的な発想が必要である。
- ・大学では専門だけでも実用だけでもなく「教養」を学んでほしい。結局、それが専門にも実用にも役立つ。